これが通例みられている。これらの活動電位を示標として時値を計算した。それによると遠心性繊維の時値はこれまでのと同様の値を示し、求心性では遠心性の繊維より時値の大きいことをみた。

次に実際の応用として、運動麻痺患者の筋及び神経について測定した。麻痺せる筋、神経では時値は大きい値を取る。これらが正確に又簡単に測定できるところから、診断学上大いに利用され得ると考えている。

8. 整形外科領域に於ける低周波電流治療の応用について

奥田八雄, 石川芳光 (整形外科)
渡辺良彦

吾々は各種疼痛性疾患及び麻痺性疾患に対し、低周波角脈波電流による治療を行った。第3通流作用の理論に基き疼痛には陰極通流を、麻痺に対しては陽極通流を行った。

実際の治療には 2.0mA, 30サイクル, 少なくとも20分以上の通流が必要である。

疼痛性疾患では神経痛及び外傷後遺症による疼痛に著効を見た。麻痺性疾患では顔面神経麻痺及び他の末梢性神経麻痺に良い結果を得た。

之等は従来の電気治療に比し、優れた成績と言える。

又麻痺性疾患の場合、閾値を測定すると、臨床症状の改善が閾値の低下と平行する場合があることを認めた。

9. 不透明肺の E. C. G.

藤本和明, 伊原博 (斎藤内科)

多相誘導のもとに電場の影響を考慮し、肺結核症103例の E. C. G. を分析した。嚴重な意味における肺性 P は5例, QRS に分岐結節をみとめたもの33例, Nehb の J に比較的しばしば生じた理由を説明した。心室伝達時間の延長したものは4例, 不完全脚ブロック, W. P. W. 症候群は1例あつた。ST-T に異常をみたものは64例であつたが、電場の変化を考慮すると病徴的に有意義なものが大いに減る点を説明した。Schlomka の型係数, Wilson, Goldberger 誘導よりの心電軸, Ashman 法による Ventricular gradient および mean elect. axis を計算し、右型, 半ないし完全垂直心, 時計方向(心尖から心底にみて)えの廻転が約70%前後にみられた。

左側不透明肺14例においても以上の変化がみとられることの多い点をのべ、右側および両側不透明肺計4例と比較し、従来いわれてきた右側侵襲の影響もさることながら、左側のそれによつても E. C. G. の異常が生じる点を指摘した。

10. 歯に装着する発音誘導装置(新考案)による吃音治療成績に就いて

佐藤伊吉, 内山清春 (歯科)

上顎前歯と口蓋前部に装着するセルロイド薄板で歯の口蓋面を有窓とし、口蓋粘膜面とセルロイド板との間に僅かの間隙がある。使用時、息をこの間隙から有窓部に流し、この状態で発音にうつる。

69名の患者に於ける精神療法と本装置による集団的発音練習の成績は、著効18例, 効32例, 良17例, やゝ良2例で、悪化は1例もない。従来の装置なしでの発音練習に比し、はるかに短時日に効果が上るのを見た。なお再発例等の観察は、時日を要するので今後の報告とする。

11. Chlorpromazine の薬理

萩原弥四郎, 小倉保巳, 村山智 (薬理学)
福島重太郎, 橋本芳郎

所謂冬眠麻酔剤 Chlorpromazine (4560 R. P.) につき他の Phenothiazine 系薬物と対比実験し、その作用機序の面を追究し次の如き結果を得た。

- ① マウス直腸温の著明な下降、麻酔剤及び Pendiomid との協力作用を観察した。
- ② マウス脳組織呼吸は殊に中脳, 小脳, 延髄に於いて抑制されるのをみた。
- ③ マウス血中 NH₃ 量の著しい減少, 肝, 腎, 小脳に於ける軽度減少, 大脳皮質, 脳幹部に於ける初期の軽度増加を認めた。
- ④ ラット前頭脳内に P³² を注入, 大脳内無機 P³² の増加, labil P³², Ester P³² の減少を認めた。
- ⑤ 猫脳波は、皮質波, 深部波共に大なる振幅を有する徐波の発現をみた。
- ⑥ 猫, 家兎にて椎骨動脈, 内頸動脈, 総頸動脈注射により、静注量の 1/100~1/10 で呼吸循環系への作用を認めたが、ことに椎骨動脈注射の際、呼吸停止, 血圧下降が著明であつた。

アドレナリン反応は逆転したが、ノルアドレナリンによる昇圧は認められた。